

CNA レポート・ジャパン

Conferencing News & Analysis, Report on Japan market - CNAReportJapan

創刊：1999年12月
発行日：毎月15日・月末
PDFによる発行

テレビ会議・ウェブ会議・電話会議システム市場専門トレンドワッチ

Vol. 17 No.12 2015年6月30日

製品・サービス動向-国内

■鈴与シンワート：テレビ会議クラウドサービス「S-Port Cloud Tシリーズ」を発売開始

(6月25日)

株式会社鈴与シンワート株式会社（東京都港区）は、テレビ会議クラウドサービス「S-Port Cloud Tシリーズ」を発売開始した。

S-Port Cloud Tシリーズは、インターネット環境があればすぐに利用可能な、サーバ管理の手間がらず容易に導入できるクラウドサービス。

特徴としては、会議の開催まで3クリックのみ、しかも会議予約も不要なためすぐに使える。また、途中からの追加招集も1クリックで済む。さらに議長以外の参加者は1クリックで会議を開始することができる。

また、複数会議を同時開催しても画像と音声が悪化しにくい。文字によるコミュニケーションも併用できる。

さらに、ASP型でありながら同時接続数の範囲内であればいくつでも会議が可能。本社と支社間の会議を行いながら、営業所間で別の会議を開催するなど自由に柔軟な活用が可能となっている。

初期費用は6万円。定額プランには5ユーザ版（6万円）と10ユーザ版（9万円）がある。オプションとして録画・録音オプションがあり、初期費用は3万円/契約、月額5,000円/契約となっている。

■ポリコムジャパン：個人・小規模会議向けのビデオコミュニケーション製品を発売

(6月16日)

ポリコムジャパン株式会社（東京都新宿区）は、日本市場向けに新たにビデオコミュニケーション製品を追加、6月16日より認定代理店を通じて販売を開始する。



今回発表されたのは、個室やミーティングスペースに適した低価格なビデオコラボレーショ

ンソリューション「Polycom RealPresence Group 310」（写真上、ポリコムジャパン）と、個人や少人数のグループに豊かなビデオコラボレーションおよびコンテンツ共有を提供する「Polycom RealPresence Group Convene」オプションアクセサリの2モデル。

Polycom RealPresence Group 310は、小規模な会議室、ミーティングスペース、個室などでの使用に最適。場所をとらないコンパクトでスマートな設計でセットアップも簡単だ。映像もコンテンツ共有（送受信）も1080pの映像解像度をサポートし、HDMI接続やVGA接続、「Polycom People+Content IPアプリケーション」を使用して簡単に共有できる。また、「Polycom



SmartParing」技術によって、手持ちのモバイルデバイスを RealPresence Group 310に簡単に接続できる。

Polycom RealPresence Group Convene（写真左、ポリコムジャパン）は、個人や少人数のグループ向けで、モニター、スピーカー、電源ユニット、スタンドを備えたオプションアクセサリ。別売りの Polycom RealPresence Group 310 や Polycom

RealPresence Group 500 に対応した柔軟なソリューションで、シングル/デュアルディスプレイ、内蔵多地点通話機能などさまざまなオプションを組み合わせることができる。

■ブイキューブ：法人向けテキストチャットサービス「V-CUBE Gate」を Apple Watch に対応

(6月18日)

株式会社ブイキューブ（東京都目黒区）は、法人向けテキストチャットサービス「V-CUBE Gate」の Apple Watch 対応アプリを、6月18日より提供開始する。

このアプリによって、利用者は、新着メッセージの通知受信と内容確認、メッセージ履歴の確認、スタンプの送信といった機能を利用できる。



Apple Watch の画面イメージ（ブイキューブ）

ブイキューブでは、2014年11月より、V-CUBE Gate の提供を開始している。企業の業務利用で欠かせない利用ユーザや利用ログの管理といった機能、高いセキュリティ、多言語対応といった点が評価されており、多くの企業に導入されているという。なお、V-CUBE Gate は無料で利用できる。

※関連：定期レポート 2014年9月15日号、2014年11月15日号

■エムキューブ：製薬企業と医師のコミュニケーションを効率化する「Web 座談会」サービスの提供を開始

(6月23日)

エムキューブ株式会社（東京都港区）は、6月23日より、製薬企業と医師とのコミュニケーションを効率化する「Web 座談会」サービスの提供を開始する。

Web 座談会サービスは、エムキューブがこれまで提供してきた Web 講演会サービス「pkgQ」、「かんたん講演会」と同様にインターネット上で利用可能なクラウドサービス。

MR や医師は、勉強会、治験説明会、治験期間中の製薬企業と医療機関の間でのミーティングなど小規模な集まりを効率的に開催でき、参加する医師は、PC、タブレット、スマートフォンから利用できる。開催までの事前準備や当日運営サポートまでを含む。

特徴としては、高品質な Web 会議サービスを使用していることと、マイクスピーカーや参加者用のタブレットなど必要な機材を要望に応じてレンタルできるといった点。また、今後は、m3.com と連携し、Web 座談会でのディスカッションの様子を m3.com の Web 講演会として配信したり、m3.com で告知や集客も予定しているという。

ブイキューブによると、製薬業界では、小規模な勉強会や討論会あるいは治験業務などで、協力医師とのコミュニケーションが数多く存在しているため、医師とのより充実したコミュニケーションができる Web 講演会への期待は大きいという。また、厚生労働省の「臨床研究・治験活性化 5 カ年」では、治験の一層の効率化を進めるため、IT の活用が促されている。

■日本アバイア：中小企業向けコラボレーションソリューション「Avaya Office」の提供を開始

(6月25日)

日本アバイア株式会社（東京都港区）は、中小企業向けコラボレーションソリューション「Avaya Office」の提供を開始する。

アナログ、デジタル、IP ソフトフォン、PC、Mac、Android、iOS のスマートフォンやタブレットなど多様なデバイスに対応したコラボレーション用のソフトウェアプラットフォーム。5名から最大3,000名（最大150拠点）に対応できる拡張性と柔軟性を持ち、管理の負担を低減した統合管理、「Avaya Aura」との相互接続、仮想化環境にも対応している。加えて「Avaya Aura System Manager」での管理も可能だ。

また、「Avaya Contact Center Select」、「Avaya Video Collaboration Solution for Avaya Office」、「Avaya ファブリックコネクストスイッチ」、「Avaya Session Border Controller」との併用が可能なほか、「Salesforce」や「Google for Work」などクラウドベースのビジネスアプリケーションにユニファイドコミュニケーション機能をプラグインで利用（先日買収した ESNA 社の技術）できるようにもなっている。

同社によると、Avaya Office は、海外では「Avaya IP Office」という名称で展開されており、すでに45万を超えるシステム上で約1,300万人のユーザが活用しているという。従来のソリューションと比べ、総所有コストを約30%減少させることが可能としている。

Avaya Office の提供は、シネックス インフォテック株式会社を通じて提供される。また、モバイル連携を軸にモバイルキャリアおよび代理店各社をリセラーとして Avaya Office を展開する計画だ。

また今後は、中規模のコンタクトセンターにも安価な Avaya Office ベースのオールインワン・コンタクトセンターパッケージを2015年夏ごろに追加オプションとし

て提供する予定とのこと。

■ブイキューブ：多言語映像通訳サービス「V-CUBE トランスレーター」、手話通訳、文字通訳サービスを追加し提供開始

(6月29日)

株式会社ブイキューブ（東京都目黒区）とパイオニア VC 株式会社（東京都目黒区）は、インターネット回線を使い、世界中どこからでも通訳オペレーターと接続することができる多言語映像通訳サービス「V-CUBE トランスレーター」を6月29日より本格的に提供開始する。

V-CUBE トランスレーターは、パイオニア VC の技術を利用した高品質な音声でオペレーターの顔が見えるリアルタイム通訳が特徴で、PC の画面共有による地図や観光ガイドなど資料を利用したコミュニケーションもできる。サービスは24時間365日利用可能（ただし、言語によってサービス提供時間が異なる）。



<サービス画面>

<ステッカー>

V-CUBE トランスレーター（ブイキューブ・パイオニア VC）

当初提供予定していた、英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ロシア語の7言語に加えて、新たに株式会社プラスヴォイス（宮城県仙台市）の提供する日本の聴覚障がい者向けの手話通訳と、オペレーターがテキストを使い会話をサポートする文字通訳サービスを追加した。

ホテルやドラッグストアなど訪日観光客が多く訪れる商業施設、聴覚障がい者や外国人が行政手続きに訪れる公共機関などで、サービス利用者の希望する言語にあわせて、遠隔からオペレーターが通訳を行う。

今後は、V-CUBE トランスレーター専用ステッカーを、サービスが利用可能な店舗や施設に配布し、利用可能な場所がわかりやすいようにしていく。対応言語やサービス提供範囲も拡充していく予定。

※関連：定期レポート 2015 年 5 月 15 日号

ビジネス動向-国内

■エムキューブとブイキューブ：オンラインで処方薬の対面販売を実現するコミュニケーションサービスを共同で開発

(6月17日)

エムキューブ株式会社（東京都港区）と株式会社ブイキューブ（東京都目黒区）は、オンラインで処方薬の対面販売や定期的な医師との面談など、いつでもどこでもだれでも利用可能な対面コミュニケーションサービスの開発を共同で開始する。



提供サービス画面例（エムキューブ、ブイキューブ）

離島やへき地などにおいて、薬剤師による処方薬の服薬指導の対面原則が、国家戦略特区の拡充策として緩和され、オンラインでの対面販売が認められる見込みとなっている。遠隔診療との組み合わせで、慢性疾患の患者は通院と薬局通いの負担が軽減されるなど、患者の利便性向上が期待されている。

そこで、今回のサービスは、ブイキューブの Web 会議サービスをもとに、離島やへき地における処方薬の対面販売実現に必要な機能の開発をおこなう。

今後は、遠隔医療分野での両社の知見を生かして、遠

隔での医師による診療行為、薬剤師による服薬指導、定期的な医師との面談など、患者が通院することなく受けられるプラットフォームの構築を目指す予定だ。

また、地方に加えて都市部の患者の負担軽減にもつながるよう、病院やクリニック、調剤薬局、自治体、医療情報システムベンダーなどの関係者と協力し、実用化に必要なシステム連携に取り組んでいく。

■ブイキューブ：Web 会議の国際利便性を高める専用ネットワークにオーストラリアを追加

(6月25日)

株式会社ブイキューブ（東京都目黒区）は、6月25日、「V-CUBE One」のアップデートを実施。

今回のアップデートでは、オーストラリアとの相互接続環境を強化する国際間の専用ネットワークを新たに構築。オーストラリアと日本のデータセンターを結んだ専用ネットワークの提供を開始する。これにより、オセアニア地域との Web 会議をより快適に実施できるようになる。

同社では、2012 年より、回線障害による遅延や通信途絶といったサービスを快適に利用できない原因となっていた国際間のインターネット回線に代わり、各地域に設置を進めているデータセンター間を接続する専用ネットワークの構築を展開してきた。安定した通信と快適で安価なサービス利用環境を実現するための取り組みで、現在ではアジア地域を中心に 13 か国にデータセンターを設置している。

製品・サービス動向-海外

■Skype 社：ブラウザ版 Skype 「Skype for Web」の提供を全世界で開始

(6月15日)



Skype for Web イメージ (Skype 社)

Skype 社は、同社のブログを通して、ブラウザで Skype を利用できる「Skype for Web」が全世界で提供可能となったと発表。

Skype 社は、昨年 11 月 14 日に一部のユーザ向けに招待した形で Skype for Web β 版の提供を始めた。その後、今年の 6 月に入りアメリカとイギリスのユーザ向けの提供を発表しており、数週間以内に全世界のユーザ向けに展開することになっていた。

Skype for Web は、英語や日本語を含む約 30 の言語に対応しており、ブラウザ上で、ビデオ通話、インスタントメッセージ、音声通話が行えるようになっている。すでに Skype アプリを使用している場合、Skype for Web に移行した際にコンタクトリストや会話履歴も反映される形になっている。加えて、「タイムラインビュー」を採用しており、コミュニケーションしたい相手やグループを検索し、すぐに会話を始めることができるようになっている。

なお、対応ブラウザは、IE・Chrome・Safari・FireFox となっている。また「Chromebook」と Linux はインスタントメッセージングが利用できるとしている。

同社によると、今回の発表は、Web 上における RTC

(Real-Time Communications) 実現に向けての重要な一歩だとコメントしている。

■Google 社：最大 20 人が参加する会議室に対応したフル HD テレビ会議システム「Chromebox for meetings」を発表

(6月25日)

Google 社 (米国カリフォルニア州) は、同社の Google for Work blog を通じて、20 名程度の会議室に対応した「Chromebox for meetings」を発表。

2014 年 2 月、Google 社は、Chrome OS を使用した小型パソコン Chromebox に、Google+ハンガアウトと Google Apps の機能を集約し、高解像度のカメラ、マイク、スピーカーユニット、リモコンといった構成でフル HD 対応ビデオ会議システム「Chromebox for meetings small room bundle(8 人まで)」を発表 (日本は 2014 年 7 月 30 日)。



最大 20 人までの会議室に対応した上位モデル Chromebox for meeting (Google)

今回発表された「Chromebox for meetings large room bundle」は、最大 20 人程度が参加できる大きな部屋向きに機能拡張されたモデルとなる。

(1) USB ベースの 1080p HD 対応パン/チルト/ズーム カメラを搭載。(2) スピーカーとマイクを 2 個提供する。(3) スクリーン共有時のフルスクリーンモード対応。(4) 管理機能の強化。たとえば、遠隔で Chrome デバイスの確認やオンライン/オフラインの状況も確認できる。

なお、米国での価格は \$ 1,999 となっている。この金

額には、初年度サポート費用が含まれている。(CNAレポート・ジャパン：日本での発売、価格等の情報については未確認)

※関連：2014年2月15日号、2014年6月31日号

展示会レポート-国内

■メディアプラス：Pexip社とInterop 2015 出展、最新のビデオ会議ソリューションを紹介

(取材：6月10日)

株式会社メディアプラス（東京都千代田区）は、ノルウェーPexip社のビデオ会議ソリューションを紹介すべく、6月10日から12日まで幕張メッセで開催されたInterop 2015に出展。Pexip社 Marius Nilsen氏によるセミナー講演や両社による最新のビデオ会議ソリューションをブースにて紹介した。

Pexip社は、タンバークやシスコシステムズなどで長年ビデオ会議ソリューションを開発してきたメンバーが2012年に設立。メディアプラスは2014年より販売代理店業務を開始。



Interop Tokyo メディアプラス ブース (メディアプラス)



Pexip Infinity を紹介する Pexip 社 Marius Nilsen 氏 (メディアプラス)

仮想サーバに対応したビデオ会議用ソフトウェア MCU「Pexip Infinity(ペクシップ インフィニティ)」を提供している。Pexip Infinity は、既存のビデオ会議システムから、「Microsoft Lync」、WebRTC といったさまざまなエンドポイントを「VMR (バーチャル ミーティング ルーム)」上で相互接続したり、既存のビデオ会議と Lync とのゲートウェイ機能を提供したりするところに特長があり、分散型 MCU 技術により無限にリソースを拡張できるためグローバルな大規模展開も容易だ。

また、大規模展開で懸念となりえる WAN 帯域使用については、効率的に帯域を抑える技術も提供している。さらに、これらのエンドポイントやシステム全体を、一か所から統合的に運用することが可能な集中管理にも優れている。

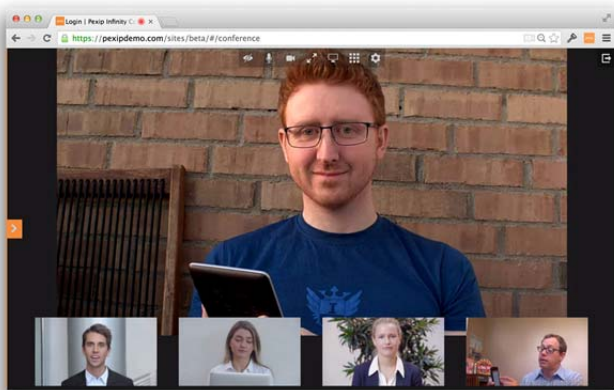
そのなかで、WAN 帯域については、MCU を分散させることで複数のビデオ会議エンドポイントからの集中アクセスを回避させる方法と、ビデオ会議中の話者の映像を高解像度でストリーム送信しながら、平行して他の視聴者の映像は低解像度で送信する技術を組み合わせることにより、WAN の帯域を効率よく抑える仕組みを実現している。

「すでに日本を含め世界各国で企業からサービスプロバイダーまで採用が広がっている。日本では大手企業に

よる社内導入だけでなく、Pexip Infinity を使ったクラウドサービスも最近始まっている。」(Pexip 社)

Pexip 社は、VMR によるミーティング使用を想定したソリューションにとどまらず、ストリーミングやeラーニング向けのソリューションも今年に入り拡充してきている。

ストリーミングについては、Pexip Infinity が youtube などの動画共有サービス (RTMP プロトコル) に対応した。仕組みとしては、Pexip Infinity がビデオ会議エンドポイントから送信される映像とデータを動画として Youtube にリアルタイムに配信し、Youtube を通して多数の人にブロードキャストが行えるもの。その際に、Youtube は Pexip Infinity のひとつのエンドポイントとして認識されるため、ストリーミングの設定や開始は簡単に行える。



WebRTC での接続画面 (メディアプラス)

一方、遠隔講義向けのソリューションとしては、「Pexip Infinity Virtual Auditorium(ペクシップ インフィニティ バーチャル オーディトリウム)」を今年に入り力を入れている。教師が遠隔から学生に対して簡単に映像と資料共有を組み合わせられた講義が行えるようになっている。すでに海外での導入実績が複数あり、一例として、オーストラリアのチャールズ・スタート大学では 2 万人以上の学生向けに VMR や Virtual Auditorium を活用した大規模な遠隔講義システムが稼働している。

Marius Nilsen 氏によると、Pexip 社の強みの源泉は、ユーザのニーズやフィードバックをもとに迅速な開発・検証環境が社内エンジニアの間で仕組みとして作られているところにあるという。これにより、Pexip Infinity は数か月という短期間でアップデートなど機能強化を実施している。また、ユーザからの要望に対しても、従来以上に迅速に新機能の追加・強化も可能という。

このような Pexip Infinity の迅速な開発・検証環境に加え、日本においてサポートを提供するメディアプラスは、日本のユーザが Pexip Infinity をさらに活用しやすくするための運用ツール「VMR オペレータ Lite」を販売している。Outlook や Google カレンダーなどから簡単に会議予約が行えるなどの機能を提供している。さらに、細かな設定などが行える高機能版の「VMR オペレータ Pro」を今年中に提供開始するという。なお、Pro については 2015 年末リリース予定となっている。

セミナー・展示会情報

<国内>

■次世代コミュニケーションセミナー

～システム検討をワークスタイル革新のチャンスに～

日時：7月1日(水) 14:30～17:10 (受付：14:00)

会場：シスコシステムズ大阪オフィス

主催：シスコシステムズ合同会社、ユニアデックス株式会社

詳細・申込：

http://www.uniadex.co.jp/event/2015/20150701_ciscouc-osaka.html

■ビデオ会議ソリューション・テクニカルセミナー 2015

日時：7月3日(金) 13:30～17:00 (受付開始 13:00)

会場：NTT-AT プレゼンテーションルーム (川崎市幸区)

主催：NTT アドバンステクノロジー株式会社

グローバルプロダクツ事業本部

メディアコミュニケーションプロダクツビジネスユニット

詳細・申込：

<http://ngw.ntt-at.co.jp/product/video/eventseminar/20150703.html>

※インフラ系製品が主なテーマ。シスコ、ファーウェイ、ポリコムによる各セッション。またシード・プランニングによる市場動向についての講演やメーカー3社によるポスターセッションもあり。

■CIAJ えくすぱーと・のれっじ・セミナー：

NECビデオコミュニケーションクラウドサービスの紹介

日時：7月6日(月) 13:00-14:30

会場：CIAJ C~E会議室（東京都港区）

主催：一般社団法人 情報通信ネットワーク産業協会（CIAJ）

詳細・申込：<https://cp11.smp.ne.jp/ciaj/seminar>

■Polycom Day 東京 遠隔とのコミュニケーションを最大化するには？ 春～初夏にかけて販売開始になる新ソリューションもご紹介！

日時：7月15日(水)15:30～16:30（開場：15:15）

場所：ポリコムジャパン セミナールーム（東京都新宿区）

主催：ポリコムジャパン株式会社

詳細・申込：

<http://response.polycom.com/01-E-P-JP-PolycomDay-Q115-Regform>

国内その他：<http://cnar.jp/cna/event-j.html>

海外その他：<http://cnar.jp/cna/event-r.html>

※イベント情報は随時情報が入り次第掲載しております。

Webの方の情報もご参照ください。

アーカイブ電子ブック版

>2003年-2013年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_report/

>2014年-2015年：

http://www.catalog-square.co.jp/cna_ebook/

電子ブック制作：カタログスクウェア株式会社

<http://www.catalog-square.co.jp>

情報発信について

CNA レポート・ジャパン（橋本啓介）では、国内外における遠隔会議システム（テレビ会議・Web 会議・電話会議・ユニファイドコミュニケーションなど）に特化した情報発信を行っています。

その情報配信のためのリサーチにおいては、企業やセミナー・展示会の取材などのほか、「製品・サービス」「ビジネス」「ユーザ導入・利用」「決算発表」「人事発表」「市場統計データ」「セミナー・展示会」といった観点から、インターネットに公開されている、各社のプレスリリースやお知らせ、ニュースメディアサイト、ポータルサイト、ブログ、掲示板、youtube、メルマガ、Linkedin、Twitter、Facebook、google+などに掲載されている遠隔会議関連の情報を日々収集しております。

収集された情報の中で、市場トレンドを見ていく上で参考になると思われる情報をピックアップして配信しています。皆様ご自身の情報収集と合わせてご利用いただければと存じます。

定期レポート（15日・月末発行）：各社からのプレスリリース、CNA レポート・ジャパンの取材による記事のみ。

Dtc-forum メーリングリスト、フェイスブック&Twitter（それぞれほぼ毎日配信）：定期レポートであつまっている各社からのプレスリリースや取材を含む、遠隔会議システムに関する情報全般。

詳細は、<http://cnar.jp> 「情報発信について」をご覧ください。

CNAレポート・ジャパン2015年6月30日号おわり

ホームページ：<http://cnar.jp> お問い合わせ：cnar@cnar.jp